

隨ひ來り夏洲士の末なりとあり予おもふ
に志るゝす世をのれ侍る人何ぞ多めの
武士をつまらざるや、(さう)或は太平記評判十八（巻）
ハ國人の未なりともや太平記評判十八（巻）
又十七葉に号國人その由二十十六人中なる
ハ四十八人大なるハ六十二人なり而飲戒ハ
三ろ六十費又ハ二ろ三十費又ハ百六十費之
にろ五十費あるハ十費ある二十費七ろ五十
費あがり其の大小よりて又有大小とお
や又郡々の内ニ在國人二十五費に十六費

一东禅寺，八幡宮

堀内はあり社領高二十二石四斗三升五合
畠原一通の面高は四十一石八斗下安田村
田九石横代村同一石七斗三升五合大所村
はあり佐正曰今堀内堀二丸は八幡寺あり